

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名
(ユニット名) グループホーム多喜人

所在地
(県・市町村名) 鹿児島県薩摩川内市里町里470番地

記入者名
(管理者) 横山修子

記入日 平成 20年 10月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「風林火山」という理念を掲げている。 「風」のように清々しくさわやかに 「林」のように静かに深く 「火」のように情熱的に 「山」のようにゆるぎない信念で		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を食堂ホールの見やすい場所へ掲示し、常に確認し合いながら取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念の中で、「利用者本位の介護に努めます」と掲げており、運営推進会議等で家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所とのつきあいが非常に深いのは、この地域の特色でもある。そのため、近所の方々からの魚介類や野菜、果物等、頻繁に差し入れがあり、足を運んでもらっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の夏祭りや敬老会、運動会等への参加はおこなっているが、行事以外の外での地域との交流は少ない。		外出の機会(散歩や自宅訪問等)をもっと増やし、地域との交流を図っていきたい。

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	不定期ではあるが、近隣在住の高齢者を招待し、利用者と一緒にお茶をされたり、レクリエーション等をおこなっている。		参加された高齢者から「楽しかった」との声を多くいただくため、今後は回数を増やしていければと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、自己評価及び外部評価を受けるのは初めてであるため、今回の評価を通し、今後につなげていきたいと思う。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、おおむね2ヶ月に1回のところ、3ヶ月に1回の実施が現状である。参加委員の会議への参加の依頼や調整がなかなか難しいことがあるのが実際のところである。		今後は、推進会議の意義を再度確認し、定期的な実施に向けて取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所に行った際等に、当事業所の現況の確認等していただき、良い情報交換の機会が得られている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用されている利用者がおられないためか、これらについての把握度が低いのが現状である。		単独世帯高齢者が急増している中、これらの活用の必要性は非常に高い。職員間での勉強会を実施、把握につとめていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待には身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待もあることを職員会議等で確認し合い、絶対に虐待が行われないよう、毎日の業務をおこなっている。		

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所申し込み時、入所希望者及びご家族に当ホームに来園していただき、ホーム見学・重要事項説明等おこなった上で、申し込みに記入していただいている。その後の入所日の契約時にも再度説明をおこなっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各職員が、毎日の利用者の対話の中から、意見や希望等、聴き取るようにしている。意見や希望等があった場合は、職員会議や運営推進会議等で議題に挙げるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態に変化があった場合は、すぐにご家族に連絡するようにしている。また、ご家族面会時には近況報告等行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進委員にご家族の代表者がおられ、ご家族を代表した意見を伺うようにつとめている。</p>		<p>その他のご家族についても、意見や希望をいただきやすい環境整備を当ホームにておこなっていかねばならないと思っている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に全職員会議を開いており、その際に意見交換をおこなっている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整が難しいのが現状であり、柔軟な対応は出来ていないと思われる。</p>		<p>柔軟な対応が出来るよう、職員の確保や勤務時間の見直し等おこなっていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は、当ホームにとって非常に痛手となっている。離島ということもあり、職員の確保が非常に難しく、離職により利用者へのダメージは大きいと思われる。</p>		

鹿児島県グループホーム多喜人

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が少ないこともあり、外部への研修への参加は少ないのが現状であるが、勤務調整をしながら、おこなえる範囲で研修への参加を実施している。</p>	<p>職員の資質向上のため、研修の機会を出来るだけ増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互訪問は少ないが、ネットワークに関しては積極的に参加するようにしている。その際に情報交換や現状報告等おこなっている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員がすくないことにより、相当な負担やストレスを感じているのではないかと思う。</p>	<p>現在、職員の食事会等を計画しているため、是非実施出来るように調整・実施していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「笑顔」での介護をモットーとしている。職員が笑顔であれば利用者も笑顔に、また、利用者の笑顔をみれば職員も笑顔にという喜びが職員の向上心につながっているのではないかと。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所申し込み時に本人が来園されなかった場合、利用前に本人のもとへ出向き、身体・精神状況、嗜好品、意向や希望等を聴取し、なるべくスムーズな受け入れが出来るよう、配慮している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所申し込み時に、これらを聴取するように配慮はしているが、その他においても電話や自宅訪問等で聴取するようにしている。</p>	

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際は、実際「どこでもいいから、すぐにでも入所できる施設をさがしている」というような強い要望が殆どであることが現状である。他のサービス利用についても説明はしているのだが、なかなか利用に結びつきにくい。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在においては、入所相談から利用までの期間が少なく、十分な時間がとれていない。</p>		<p>本人・家族が安心して利用出来るよう、最大限に配慮していききたいと思う。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者本位の介護のもと、一緒に家事や食事等とともにすることで、利用者から学ぶことは非常に多い。しかし、利用者の中には、意向や要望をなかなか口に出されない方もおられる。</p>		<p>利用者から気軽に話していただけるような利用者との関係づくりをしていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>当ホームでおこなう行事等にはご家族を招待し、利用者・家族・職員全員でおこなっている。また、ご家族の面会時には積極的に話しをするようつとめている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>地域のつながりが深い特色を最大限に活かし、本人と家族との関係がよりよいものとなるよう、配慮している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>園外への散歩や自宅訪問等を通して、近隣との世間話しや情報交換の機会を設けている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者間でのトラブル(口論)も時々起こってしまうが、トラブル後の対応に注意している。トラブルを起こされた利用者とは直接話しをし、その後の生活に支障をきたさぬよう、配慮している。</p>		

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後には、ご家族等に電話連絡などにより、現在の状況等を確認している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者本位の介護」をモットーにおこなっている。毎日利用者と接するなかで、本人の希望や要望を把握することが出来るよう、配慮している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時や、利用開始までの時間で、本人・家族等より生活歴や趣味等を確認している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	総合的に把握できるよう、毎日の利用者との関わりを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成において、本人、家族、必要な関係者との話し合いは、不十分であると感じる。		利用者のより良い生活のため、関係者との十分な話し合いを経て介護計画作成につとめたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議等を通し、現状や今後の新たな課題等の確認をおこない、介護計画見直しにつなげている。		

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は作成しているが、内容の希薄や不十分さがあり、徹底が図れていない。		個別記録の大切さをもう一度職員間で確認し、記録の徹底を図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの敷地内にある畑の活用や散歩、レクリエーション等おこなっているが、柔軟な支援につながっているかどうかは自問自答している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	十分な協力が出来ているとは言い難いが、特に民生委員とは密に連絡を取り合うようにしており、民生委員の来園や利用者への面会も多い。		各機関との協働を十分なものとしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所との情報交換等はおこなっているが、他のサービス利用にはいたっていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護の活用はないが、地域包括支援センターとは連絡を密にするよう、つとめている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	離島のため、医療機関の選択肢はほぼ限られているが、本人・家族の希望により、本土の医療機関への受診も対応している。		

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医とは密に連絡を取り合っており、定期的な往診もしていただいている。その際、利用者も主治医と積極的に話しをされている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理を確実にこなうとともに、状態変化があった場合は、主治医への連絡を随時おこなっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	離島により、入院設備が無いため、殆どが本土の医療機関への入院となる。現在、入院者はおられないが、入院時には医療機関との連絡を密におこなう必要がある。		利用者・家族が、入院中に退院後についての不安を抱かれることがないよう、支援していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、非常にデリケートな問題であり、慎重に進めていく必要があると思われる。現段階での取り組みはまだまだ不十分で、検討を重ねていく必要がある。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まずは、重度化にならないための取り組みが最優先であり、非常に重要であると思う。その取り組みの中で、重度化や終末期の取り組みに向けて、検討を重ねていく必要がある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所前より、家族や他施設とは十分に連絡を取り合っている。また、退所後も密に連絡を取り、状況把握につとめている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>毎日の業務の中でのプライバシー保護には随時徹底を図っており、職員用更衣室に注意事項として掲示している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の思いや希望に対し、出来る限り対応している(散歩や買い物、自宅訪問等)。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間や入浴日は決まっているが、本人の希望があれば、なるべく希望に沿って対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>衣類交換や入浴時等には、本人が好む衣類を着ていただいている。本人の希望が無い場合は、確認の上、選んでいる。理容は定期的に来園していただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人の嗜好品に出来るだけ配慮し、より家庭的な食事の提供につとめている。また、利用者の可能な限り、食事の準備や配膳、片付け等、職員とともにこなえる環境づくりをおこなっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物やおやつ等は、同じ物ではなく、利用者の嗜好に合わせて提供している。</p>	

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握のため、個人の排泄記録を作成し、トイレ誘導等おこなっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、本人の希望に合わせ、時間をずらしたり、入浴日を変えたりしている。また、近くにある温泉の利用もおこなっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の入眠時間等の把握につとめ、ベッドメイキングや移乗介助等おこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の中では、畑や周囲の草取り、家事等をおこない、その他、季節に応じ、散歩や外での昼食会等おこなっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には、小遣い程度のお金を所持しておられ、必要物品の購入等おこなっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外での茶話会等積極的におこなっている。また、利用者個人での外出希望時も、職員同行にて自宅訪問や買い物等おこなっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	景勝地での茶話会などはおこなっているが、利用者・職員が中心となっている場合が多い。		積極的にご家族への参加の依頼をおこなってきたい。

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話が可能な利用者についてはその都度おこなっているが、電話をかけたくてもかけられない利用者については、職員介助にておこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	近隣住民への声掛け等にて、訪問しやすい環境整備はおこなっているが、不十分な点が多い。		近日中に、当ホームの広報誌を作成し、地域住民に配布する予定としている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた取り組みについては、職員会議等にて周知徹底は図っているが、まだまだ不十分な点が多い。		早急に「身体拘束廃止委員会(仮名)」を発足し、身体拘束廃止への理解を深めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	強い帰宅願望により、ホームから外へ出ようとされる利用者もおられるため、職員の見守りを徹底し、事故やトラブル発生防止につとめている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員個々の見守りや、利用者の状態についての職員間の申し送りを徹底し、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品等は倉庫にまとめ管理している。また、利用者所有の危険物品は、利用者の同意のもと、職員により保管・管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に利用者から目が離れぬよう、事故防止につとめている。		

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルは整備しているが、職員個々の把握はまだまだ不十分であり、定期的な訓練もおこなえていない。		マニュアルの把握の徹底、定期的な対応訓練等おこない、事故発生時も慌てることのないよう、取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練の実施、地元消防団との連携等おこない、緊急時に備えている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化時にはもちろん、近況報告等も随時おこなっており、その上で本人・家族の意向や希望を確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	まず、利用者の変化に「気付く」ことが大切であると考え、毎日の様子観察をおこなっている。異変時にはまず看護師に報告し、かかりつけ医との連携を図りながら対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、管理している。服薬管理表には、薬の種類や作用が記されている。また、薬の変更時も管理表の訂正をおこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護師が中心となり、便秘の管理をおこなっている。食べ物の工夫や毎日の運動、医療機関との連携を通し対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に加え、起床時の口腔ケアもおこなっている。		

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表にて管理している。また、食事は肉や魚、野菜など、バランスの良い食事の提供を心掛けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを策定し、周知徹底を図っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを策定し、調理用具等の衛生管理や手洗い・うがい等、食中毒予防につとめている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路からすぐに玄関が位置しており、来客者がわかりやすいような構造となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の1人がホーム内の各所に花を飾られたり、職員によりホール内に掲示板を設置しているが、まだまだ不十分さを感じる。		家庭的な雰囲気を各職員が再度認識し、季節感ただよような空間整備を図っていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に畳やソファ等設置しているが、利用者の殆どは自室で過ごされる方が多く、良き交流の場として活用されていない。		利用者・職員が良い交流が図れるよう、環境整備につとめていきたい。

鹿児島県グループホーム多喜人

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の殆どの居室が、物が少なく、個性的な空間とは言い難い。本人と話しをしても、「いろいろ持ってきても仕方がない」「どうせ使わないから」というような返事が返ってくる。		ご家族とも相談していき、利用者が居心地がよくなるような居室の整備を図っていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	特にオムツ交換後の換気には注意している。また、温度調節についても、居室訪室時に職員が敏感となり、職員の感覚ではなく、利用者の感覚に合わせて調節するよう、心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、前面バリアフリーとし、廊下には手すりを設置しており、利用者が生活しやすいような配慮はおこなっているが、障害物(テーブルやソファ等)もあるため、注意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立に向け、どのような取り組みをおこなっていけばいいのか、職員毎日が四苦八苦しているのが現状である。毎日の利用者との関わりの中で見つけ出していかなければならない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには芝生があり、利用者の中には、その芝生での散歩を日課としている方もおられる。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

鹿児島県 グループホーム多喜人

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、開設から1年も経たない事業所で、まだまだ手探りの状態で、アピール出来るような点はないのではないかと思います。ただ、「利用者本位の介護」「笑顔での介護」には特に力を入れて取り組んでいる。また、地域性として、地域住民とのつながりが深く、私達は、地域に支えられながら毎日の生活を送っている。地域とのつながりはとても重要なことと思っており、今後もより一層の取り組みをおこなっていきたい。